

(4)「現代社会」(1年)について

[アプローチの方法]

本校が指定された「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の取組の1つに、地域課題解決等を通じた課題探究を行う、というものがある。それに関して、1年の現代社会では、本年度の夏期休業中の課題として、「私たちの地元再発見!」という課題を出した。

まず、1学期末の授業の中で3～5名からなるグループ分けを行い、学級で8～10のグループを作らせた。次にグループごとに、それぞれ夏期休業中に奈良県内のどの地域を調べるのかを話し合わせた。事前に示したプリントで、A:奈良市エリア、B:北西部エリア、C:中部エリア、D:東部エリア、E:南部エリアの5地域を示し、この中から調べたいと思う地域を1つ選ばせ、次いで、各エリアの中から実際にフィールドワークを行う市町村を決定させた。

令和元年度 現代社会(1年)夏期課題「私たちの地元再発見!」の案内

地歴公民科(現代社会)

〇はじめに

みなさんが敬福高校に入学してから最初の夏休みを迎えます。本校は、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定校です。その取り組みの1つに、地域課題解決等を通じた課題探究を行う、というものがあります。2年生時には、「課題研究」というカリキュラムが設定されますが、現段階で「地域」に対する皆さんの関心はどうでしょうか?現代社会では、夏休みの課題で地元(奈良県)に焦点を当てて、その魅力や課題を発見し、地域に対する関心を高めてもらおうと思います。もちろん、この取り組みを通して、調査力・研究力、あるいはプレゼンテーション能力も身につけてもらいたいと思います。みなさんの志高い取り組みを楽しみにしています。

〇課題について

目的:地元(奈良県)について調べ、地元(奈良県)の課題や魅力を再発見する(地元について「気づく」)。

方法:① グループを決定し、役割分担等を行う。

- ① 1学期の授業および夏休み中に事前学習をする。(何をどのように調査するのか)
- ② フィールドワークを行う。(現地で実際に調査する)
- ③ それぞれ資料をまとめる。(別紙様式2種類)
- ④ 2学期の授業でグループごとに調査結果をポスター化する。
- ⑤ 2学期の授業で発表する。(共有・相互評価する)

★夏期課題

〇グループの決定について

- ・1グループあたり3～5名、1クラスで最大10班までのグループを作ります。
- ・班で調べる地域を設定します(その理由も含めて)。

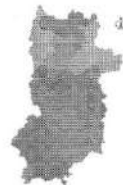
〇地域区分について(奈良県ホームページ、エリアマップを参照)

- ☆自分の居住エリアでなくても良いです。調べたいと思う地域を選択し、班を決定してください。
- ☆班の中で、特に重点的に調べる地域を決定してください。

- A:奈良市エリア
- B:北西部エリア(安堵/斑鳩/生駒/王寺/香芝/葛城/河合/上牧/広陵/三郷/平群/大和郡山/大和高田)
- C:中部エリア(明日香/橿原/川西/桜井/高取/田原本/天理/三宅)
- D:東部エリア(宇陀/曾爾/御杖/山添)
- E:南部エリア(大淀/上北山/川上/黒滝/五條/御所/下市/下北山/天川/十津川/野追川/東吉野/吉野)

〇フィールドワークの注意事項

- ・別紙フィールドワークの計画書を必ず提出し、教科担当に承認を得てから実施すること。
- ・保護者に行き先を伝えてフィールドワークに出かけること。
- ・フィールドワークは班のメンバー全員の都合を合わせて揃っていくこと。
- ・2学期に作成する資料には、全員の写った写真(もちろんフィールドワークに関するもの)を添付すること。
- ・危険な場所に行ったり、安全の配慮に欠ける行動をしない。天候に応じて行程を変えても良い。(☆特に、増水時の河川や、地盤が緩くなっている際の山中は危険です。また、猛暑にも注意しましょう。)
- ・フィールドワークの中で、街頭インタビュー等を行っても良いが、G国の授業で教わった通り、礼儀正しくすること。
- ・予約・アポイントメントを取る必要がある場合の手続きも自分たちで行うこと。ただし、学校を通さなければいけない場合は相談に応じる。
- ・万が一トラブルがあった場合には、学校に報告・連絡すること(平日の日中のみ)。

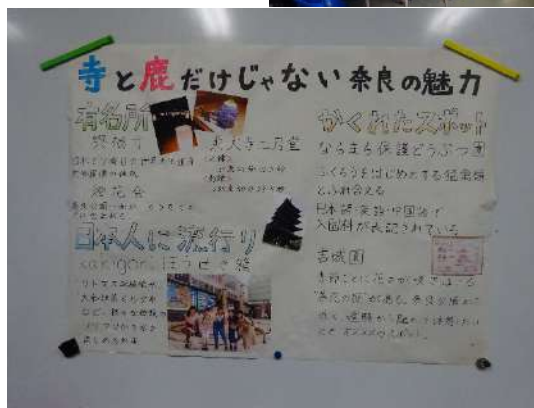


[調査研究]

フィールドワークについては、「フィールドワークのすすめ」を配布し、例を示しながら、次のようなことを念頭において計画するように指示した。

- ・何を調べるのか、明らかにしてから取り組む。
- ・「なぜ?」という視点を持っていく。
- ・「実際どうなっているのか?」という視点でも良い。
- ・目的とは異なる発見も見逃さず記録する。
- ・不便・便利も気づきになる! 素直に感じたことを記録する。

2学期当初の授業では、グループごとに計5時間程度かけてポスターセッションの準備にあたらせた。まず、「ポスターセッション発表について」を配布し、次のような手順を進めさせた。提出した個人レポート①・②を、グループ内でシェアする。次にポスターの下書きプリントをグループで話し合いを重ねながら作成する。下書きプリントが完成したら、それを教科担当者に提出し、「OK」が出た後、ポスターの作成に取り掛かる。なお、ポスターには部分的にグラフや図なども取り入れ、できるだけ見やすいポスターにすることを心掛ける。



そうして9月下旬から3時間ほどかけてポスターセッションを実施した。発表はあらかじめ抽選で決めておいた順番にしたがって進めた。発表時間は1グループにつき7分間程度とし、その後、質疑応答や教科担当者からの助言などを合わせて12分間とした。また、グループ内での役割分担や原稿作成などは発表当日までに準備し、発表の練習もさせた。

発表に際しては、作成したポスターを黒板の中央に掲示し、メンバーが順次交替しながら説明させた。説明にあたっては、できるだけポスターを活用すること、また、クラスメートの方を向き、原稿を読むのではなく、伝えるようにと強調した。

[発表と評価]



1グループが発表を終えた後、数名の生徒から質問を出させた。積極的に質問する生徒もいたが、実態はなかなかその通りにならないことも多いので、あらかじめ質問者を割り当てる場合もあった。ひと通り質問が終わった後、教科担当者から質問及び講評を加えて区切りとした。

発表グループ以外の生徒には、「ポスターセッション評価用紙」にある20の評価項目のうち該当する項目にチェックさせた。チェック項目1つにつき1点として、20点満点での評価となる。また、別に設けてあるコメント欄を使い、疑問・質問・良かった点・改善点などを記入させた。

こうして、すべてのグループの発表が終了した時点で、評価項目を集計させた。集計にはグーグルフォームを使い、スマートフォンから入力集計する方法を取った。このことにより、データの集計や分析が大変迅速に、かつ大量のデータ処理が可能となった。また、評価項目以外に「発表を終えての感想」と「授業や発表全般への感想・意見」を記述形式で回答させた。

集計結果については、20の評価項目ごとにチェックした人数とその割合の数値をグラフ化したものと個々のコメントをまとめた用紙をプリントしてそれぞれのグループに返却し、グループ内でそれを確認させるとともに、今後このような取り組みを行う場合に向けて、どのような点を参考にして取り組めばいいのかを考えさせた。

2019年 1年生 現代社会
「私たちの地元再発見！」ポスターセッション評価用紙

1年()組()番 氏名() ()班

★ポスターセッション発表はそれぞれ相互評価を行います。ポイントとは以下の3点です。
 (1) 20項目のチェック項目を1つ1点として、20点満点で評価します。
 (2) 自分の班は評価しません。他のグループの評価をします。
 (3) 疑問や感想、良かった点などは下の枠内に記入します。必ず何か書いてください。

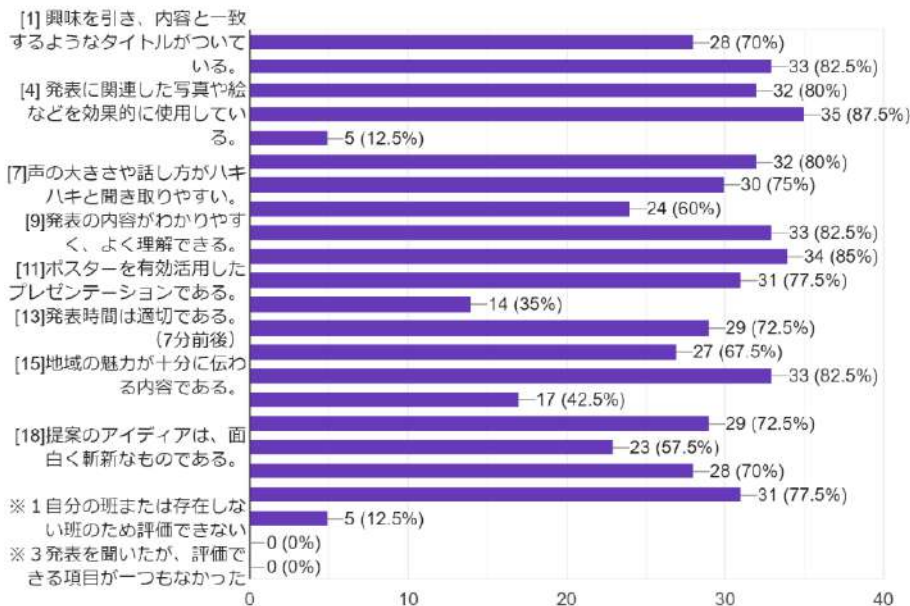
| 項目 | 班 | | | | | | | | | | 評価項目 | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|------|------------------------------------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | [1] 興味を引き、内容と一致するようなタイトルがついている。 |
| 2 | | | | | | | | | | | | [2] 文字の大きさや書体は適切である。 |
| 3 | | | | | | | | | | | | [3] ポスターを眺みただけで内容が伝わる。 |
| 4 | | | | | | | | | | | | [4] 発表に関連した写真や絵などを効果的に使用している。 |
| 5 | | | | | | | | | | | | [5] グラフや表などを表裏的なデータに基づき作成している。 |
| 6 | | | | | | | | | | | | [6] レイアウト全体が美しいポスターである。 |
| 7 | | | | | | | | | | | | [7] 声の大きさや話し方がハキハキと聞き取りやすい。 |
| 8 | | | | | | | | | | | | [8] 聴衆を説いているだけでなく、聞き手の方を向いて話している。 |
| 9 | | | | | | | | | | | | [9] 発表の内容がわかりやすく、よく理解できる。 |
| 10 | | | | | | | | | | | | [10] 班のメンバーがそれぞれ役割を担って発表できている。 |
| 11 | | | | | | | | | | | | [11] ポスターを有効活用したプレゼンテーションである。 |
| 12 | | | | | | | | | | | | [12] 授業から前座が開始に出ており、定数がしっかりとできている。 |
| 13 | | | | | | | | | | | | [13] 発表時間は適切である。(7分前後) |
| 14 | | | | | | | | | | | | [14] 目的明確・目的が明確で、それに合った観覧ができている。 |
| 15 | | | | | | | | | | | | [15] 地域の魅力が十分に伝わる内容である。 |
| 16 | | | | | | | | | | | | [16] 地域の課題を具体的な提議に基づいて示している。 |
| 17 | | | | | | | | | | | | [17] 地域の課題に対する提議が、実現可能と思われるものである。 |
| 18 | | | | | | | | | | | | [18] 提案のアイデアは、面白く斬新なものである。 |
| 19 | | | | | | | | | | | | [19] 非定着された地域について、初めて知ることがある。 |
| 20 | | | | | | | | | | | | [20] フィールドワークの効果が発表内容に十分生かされている。 |
| 計 | | | | | | | | | | | | |

☆コメント欄 (※必ず何か書くこと。疑問・質問・良かった点・改善点など)

| | | |
|----|--|-----|
| 1班 | | 6班 |
| 2班 | | 7班 |
| 3班 | | 8班 |
| 4班 | | 9班 |
| 5班 | | 10班 |

2班の評価

40件の回答



[生徒の反応]

「発表を終えての感想」

- ・ 班でもう少し、提案の内容をより具体的に話し合い、発表すればよかった。また、話すときは聞くひとの方を向いて話せばよかった。フィールドワークを通して、奈良県内の地域の魅力を再発

見ることができ、もっと知りたいと思った。また、課題も地域によっていろいろあり、自分達もそのことについて考え、行動できるところはしていこうと思った。

- ・自分で調べた地域だけでなく奈良県全体のいろんな地域のことをたくさん知ることができてとてもよかったです。これをもとにして奈良県の魅力をもっと伝えていけたらいいなと思うことができました。
- ・他の班のポスターを見て、私達ももっと写真や図を用いたりすればよかったです。内容ももっと具体的なデータに基づいてまとめ、解決策ももっと内容を確認にして実行しやすいものにすればよかったですと後悔した。発表のしかたももっとポスターを活用して、はきはきと話せるよう努力すればよかったです。
- ・最初は上手くできるか心配だったけど、あっという間に時間が過ぎていって、発表が終わってから振り返ると、無事に終了できて安堵の気持ちです。チームで行動していく中で色んな意見を交換することで、発表やポスターの質を高められたと思います。

「授業や発表全般への感想・意見」

- ・他の班の発表を見ていて、とても内容が伝わりやすい発表があって、自分の発表内容はもっと伝わりやすいようにするべきだったなと思いました。今回の発表で、自分が住んでいる奈良県なのに知らないこともたくさんありました。そして、もっと奈良県について、知らないといけないなと感じ、行ったことのない所などには、積極的に行こうと思いました。
- ・本音を言うと、出かける前は「行ってみてもなにもできる気がしない、得られる自信もない。それなら行くだけ面倒だなあ」と思うときもありましたが、体験しなければわからなかったこと、その地域に対するイメージを大きく変えることができたので、本当に行ってみてよかったですなと思っています！ 大きな達成感を感じることができたので、とてもやりがいのある授業だったと思います！
- ・問題点がわかっても実際にその地域に行かないと現状がわからないし、また同じ問題でも人によって見方や解決案が違い、それを共有するのはおもしろかった。

[成果と展望]

「私たちの地元再発見！」の取り組みを通して、生徒たちは自ら奈良県内の各市町村が直面する課題にアプローチするとともに、その解決に向けてどのような方法があるのかを考え始める端緒となったことは確かである。フィールドワークを通して培われた情報収集力やコミュニケーション力、ポスターセッションの準備を通して得られた表現力や協働力、そしてプレゼンテーション能力などは、今後の課題研究等にも大いに生かせる能力となったと考えている。

これからの世の中において、グローバルな視点で地域や社会を考えることは、ますます重要となってくる。今回の地域の課題を考える取り組みを通して、生徒たちは物事を多角的にとらえる俯瞰力が必要だということに気づいてくれたものと捉えている。